２　麦　類

(1)　要　旨

ア　作付面積

平成29年産４麦（小麦、二条大麦、六条大麦及びはだか麦）の子実用作付面積は27万3,700haで、前年産に比べ2,200ha（１％）減少した（表２－１、図２－１）。

イ　収穫量

平成29年産４麦の子実用収穫量は109万2,000ｔで、前年産に比べ13万1,000ｔ（14%）増加した（表２－１、図２－１）。

図２－１　４麦（子実用）の作付面積及び収穫量の推移（全国）

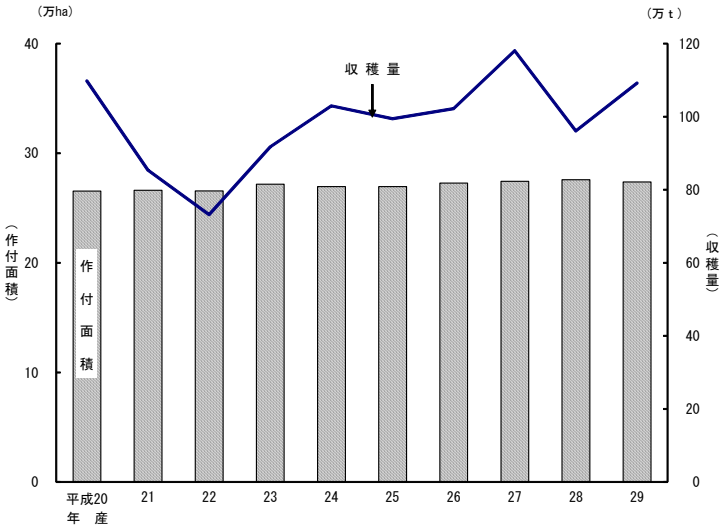


表２－１　平成29年産４麦（子実用）の作付面積、10ａ当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10ａ当たり収量	収穫量	前年産との比較						（参考）	
				作付面積		10ａ当たり収量	収穫量			10a当たり平均収量対比	10a当たり平均収量
				対差	対比	対比	対差	対比			
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%		%	kg
全国											
４麦計	273,700	…	1,092,000	△ 2,200	99	nc	131,000	114		nc	…
小麦	212,300	427	906,700	△ 2,100	99	116	115,900	115		111	384
二条大麦	38,300	313	119,700	100	100	112	12,900	112		106	295
六条大麦	18,100	290	52,400	△ 100	99	98	△ 1,200	98		104	278
はだか麦	4,970	256	12,700	△ 20	100	128	2,700	127		102	251
北海道											
４麦計	123,400	…	613,500	△ 1,200	99	nc	82,400	116		nc	…
小麦	121,600	500	607,600	△ 1,300	99	117	83,300	116		113	444
二条大麦	1,720	337	5,800	30	102	85	△ 920	86		102	331
六条大麦	x	x	x	x	x	x	x	x		x	－
はだか麦	35	371	130	16	184	106	64	197		110	336
都府県											
４麦計	150,400	…	478,200	△ 900	99	nc	48,300	111		nc	…
小麦	90,700	330	299,100	△ 800	99	113	32,600	112		111	296
二条大麦	36,600	311	113,900	100	100	114	13,800	114		106	294
六条大麦	18,100	290	52,400	△ 100	99	98	△ 1,200	98		104	278
はだか麦	4,940	253	12,500	△ 30	99	127	2,560	126		101	251

注：１　「（参考）10ａ当たり平均収量対比」とは、10ａ当たり平均収量（原則として直近７か年のうち、最高及び最低を除いた５か年の平均値）に対する当年産の10ａ当たり収量の比率である（以下各統計表において同じ。）。
　　２　全国農業地域別（以下「地域別」という。）の10ａ当たり平均収量は、各都府県の10ａ当たり平均収量に当年産の作付面積を乗じて求めた平均収穫量を地域別に積み上げ、当年産の地域別作付面積で除して算出している。

表２－２　平成29年産４麦（子実用）の作付面積、10ａ当たり収量及び収穫量（全国農業地域別）

全国農業地域	４麦計		小麦				二条大麦				六条大麦				はだか麦			
	作付面積	収穫量	作付面積	10ａ当たり収量	収穫量	（参考）10ａ当たり平均収量対比	作付面積	10ａ当たり収量	収穫量	（参考）10ａ当たり平均収量対比	作付面積	10ａ当たり収量	収穫量	（参考）10ａ当たり平均収量対比	作付面積	10ａ当たり収量	収穫量	（参考）10ａ当たり平均収量対比
	ha	t	ha	kg	t	%	ha	kg	t	%	ha	kg	t	%	ha	kg	t	%
全国	273,700	1,092,000	212,300	427	906,700	111	38,300	313	119,700	106	18,100	290	52,400	104	4,970	256	12,700	102
北海道	123,400	613,500	121,600	500	607,600	113	1,720	337	5,800	102	x	x	x	x	35	371	130	110
都府県	150,400	478,200	90,700	330	299,100	111	36,600	311	113,900	106	18,100	290	52,400	104	4,940	253	12,500	101
東北	8,230	21,400	7,040	246	17,300	121	x	275	x	367	1,180	349	4,120	143	1	23	0	nc
北陸	10,500	29,800	376	234	879	126	9	156	14	108	10,100	286	28,900	98	x	x	x	nc
関東・東山	38,700	143,400	21,100	381	80,400	110	12,600	380	47,900	112	4,950	299	14,800	108	96	345	331	136
東海	16,600	58,400	15,900	356	56,600	117	2	123	3	103	681	247	1,680	103	14	271	38	181
近畿	10,500	25,700	9,270	242	22,400	102	154	250	385	109	1,030	271	2,790	108	x	206	x	120
中国	5,700	17,500	2,290	298	6,830	121	2,820	344	9,700	108	91	190	173	112	502	157	788	98
四国	4,700	14,700	2,050	359	7,360	120	30	280	84	88	x	x	x	nc	2,620	277	7,260	103
九州	55,400	167,200	32,700	328	107,300	112	21,100	265	55,900	99	12	392	47	118	1,630	243	3,960	105
沖縄	x	x	23	122	28	67	x	x	x	x	－	－	－	nc	－	－	－	nc

(2) 解　説

ア　小麦（子実用）

(ｱ)　作付面積

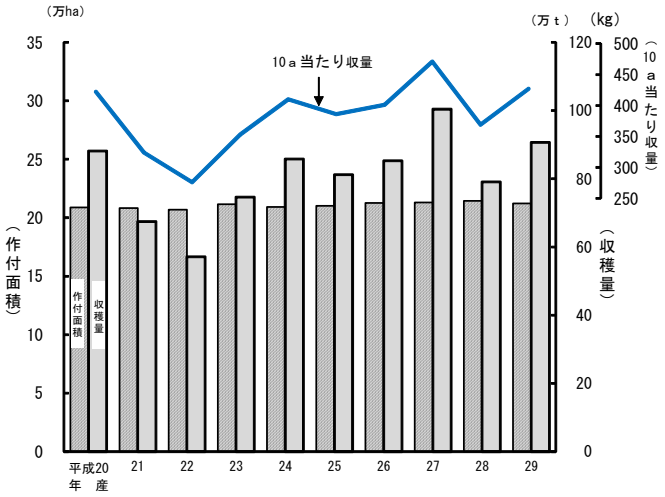
小麦の作付面積は21万2,300haで、前年産に比べ2,100ha（１％）減少した。

このうち、北海道は12万1,600haで、1,300ha（１％）減少した。

また、都府県は９万700haで、前年産に比べ800ha（１％）減少した。

これは、他作物への転換等があったためである（表２－１、２－２、図２－２）。

図２－２　小麦の作付面積、収穫量及び10ａ当たり収量の推移（全国）



(ｲ)　10ａ当たり収量

10ａ当たり収量は427kgで、前年産に比べ16％上回った。

このうち、北海道は500kgで、前年産に比べ17％上回った。

また、都府県は330kgで、前年産に比べ13％上回った。

これは、作柄の悪かった前年産に比べおおむね天候に恵まれ、生育が順調で登熟も良好であったためである（表２－１、２－２、図２－２、２－３、２－４）。

(ｳ)　収穫量

収穫量は90万6,700ｔで、前年産に比べ11万5,900ｔ（15％）増加した。

このうち、北海道の収穫量は60万7,600tで、前年産に比べ８万3,300ｔ（16％）増加した。

また、都府県の収穫量は29万9,100tで、前年産に比３万2,600t（12%）増加した（表２－１、２－２、図２－２）。

図２－３　平成29年産麦作期間の半旬別気象経過（帯広）

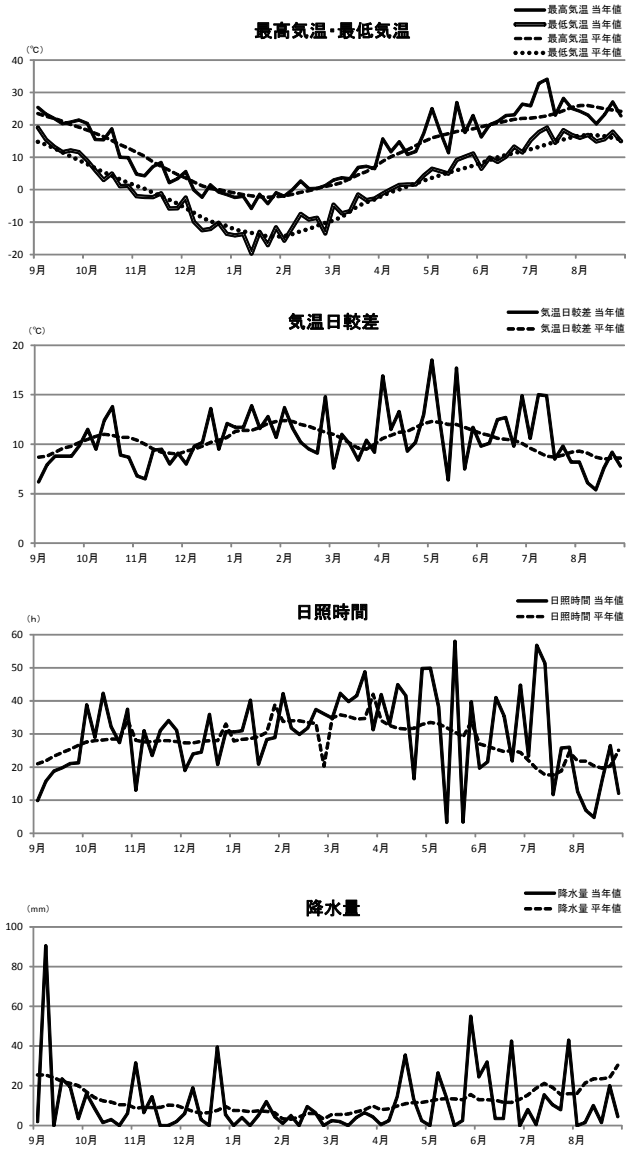
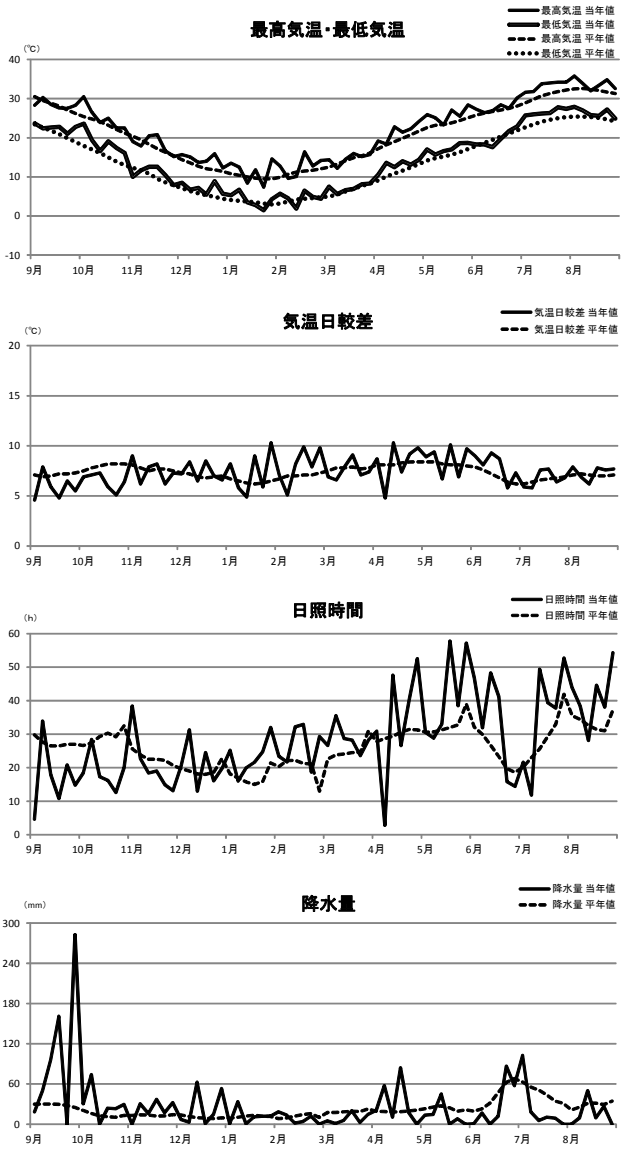


図２－４　平成29年産麦作期間の半旬別気象経過（福岡）



イ　二条大麦（子実用）

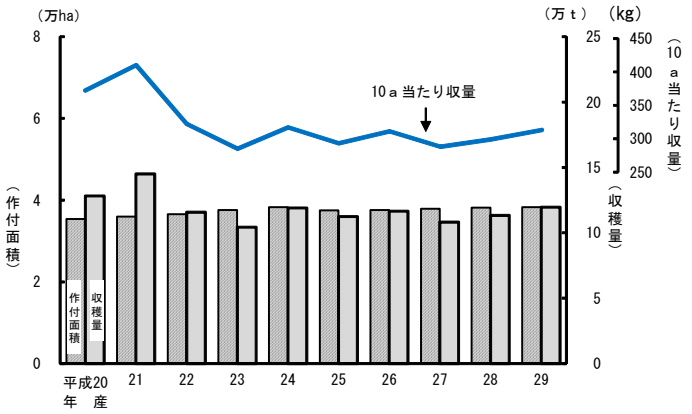
(ｱ)　作付面積

二条大麦の作付面積は３万8,300haで、前年産並みとなった。

このうち、北海道は1,720haで、前年産に比べ30ha（２％）増加した。

一方、都府県は３万6,600haで、前年産並みであった（表２－１、２－２、図２－５）。

図２－５　二条大麦の作付面積、収穫量及び10ａ当たり収量の推移（全国）



(ｲ)　10ａ当たり収量

10ａ当たり収量は313kgで、前年産に比べ12％上回った。

これは、おおむね天候に恵まれ、生育が順調で登熟も良好であったためである（表２－１、２－２、図２－５、２－６、２－７）。

(ｳ)　収穫量

収穫量は11万9,700ｔで、前年産に比べ１万2,900ｔ（12％）増加した（表２－１、２－２、図２－５）。

図２－６　平成29年産麦作期間の半旬別気象経過（栃木）

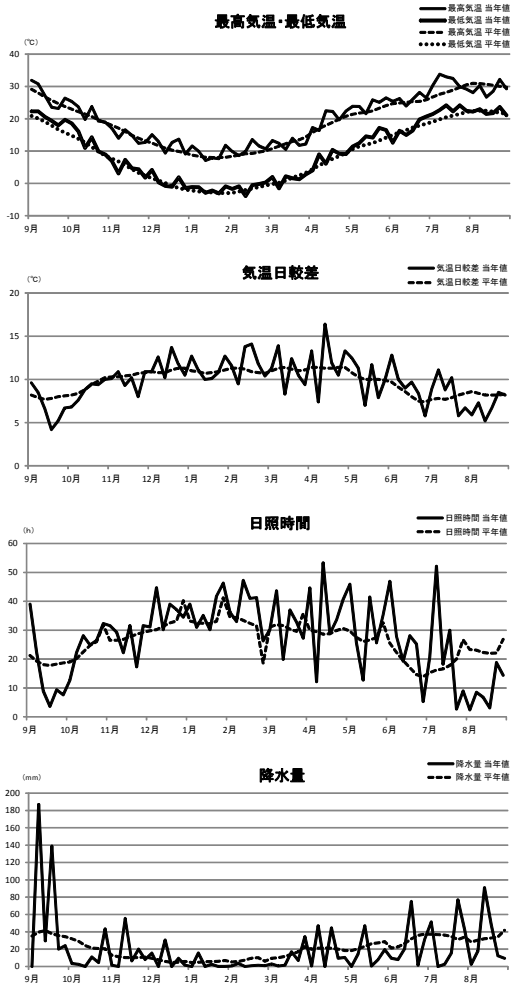
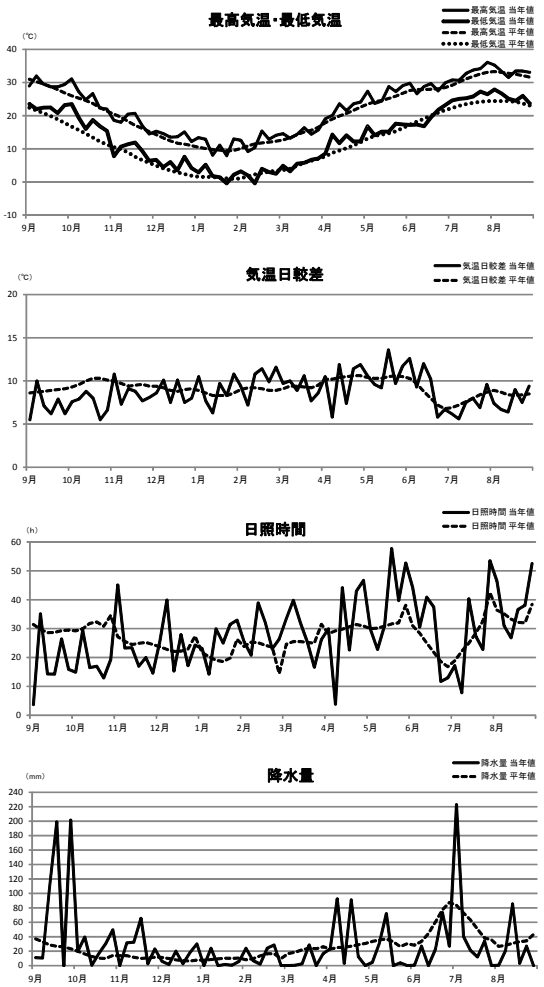


図２－７　平成29年産麦作期間の半旬別気象経過（佐賀）



ウ　六条大麦（子実用）

(ｱ)　作付面積

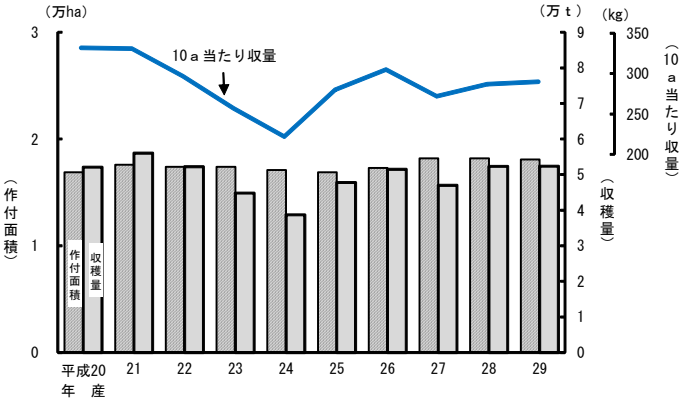
六条大麦の作付面積は１万8,100haで、100ha（１％）減少した（表２－１、２－２、図２－８）。

(ｲ)　10ａ当たり収量

10ａ当たり収量は290kgで、前年産に比べ２％下回った。

これは、北陸地域において、は種期の降雨による発芽不良により、穂数が少なくなったためである（表２－１、２－２、図２－８、２－９、２－10）。

図２－８　六条大麦の作付面積、収穫量及び10ａ当たり収量の推移（全国）



(ｳ)　収穫量

収穫量は５万2,400ｔで、前年産に比べ1,200ｔ（２％）減少した（表２－１、２－２、図２－８）。

図２－９　平成29年産麦作期間の半旬別気象経過（富山）

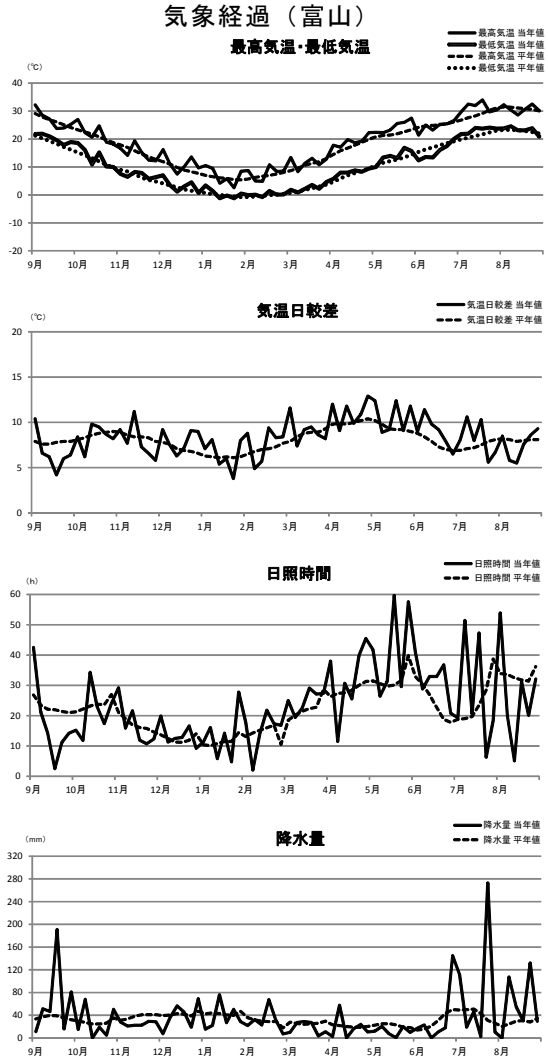
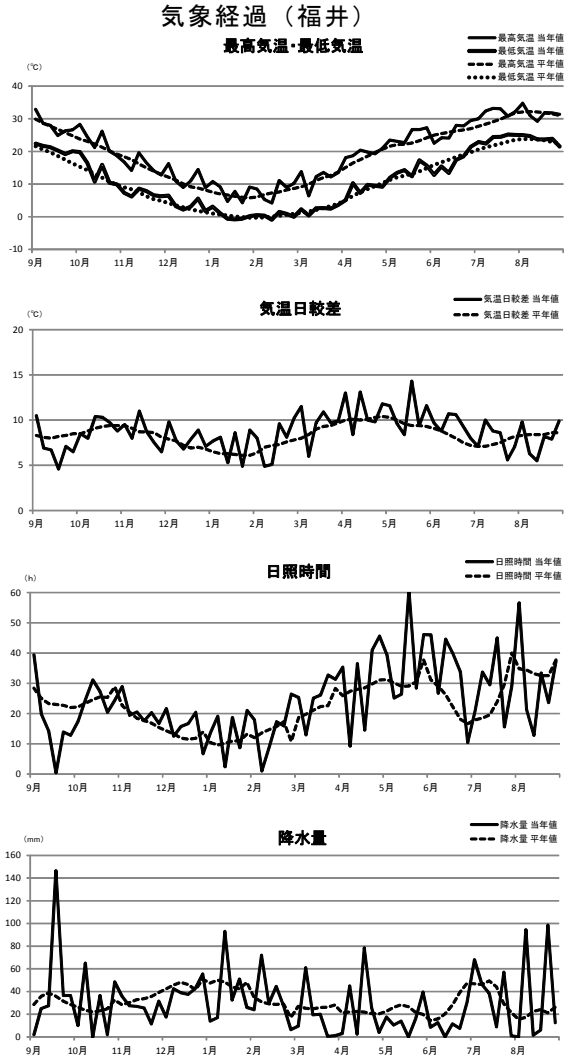


図２－10　平成29年産麦作期間の半旬別気象経過（福井）



エ　はだか麦（子実用）

(ｱ)　作付面積

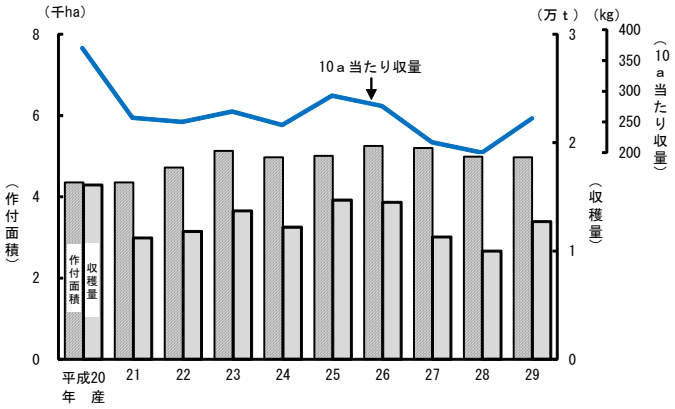
はだか麦の作付面積は4,970haで、前年産並みであった（表２－１、２－２、図２－11）。

(ｲ)　10ａ当たり収量

10ａ当たり収量は256kgで、前年産に比べ28%上回った。

これは、おおむね天候に恵まれ、生育が順調で登熟も良好であったためである（表２－１、２－２、図２－11、２－12、２－13）。

図２－11　はだか麦の作付面積、収穫量及び10ａ当たり収量の推移（全国）



(ｳ)　収穫量

収穫量は１万2,700ｔで、前年産に比べ2,700ｔ（27%）増加した（表２－１、２－２、図２－11）。

図２－12　平成29年産麦作期間の半旬別気象経過（愛媛）

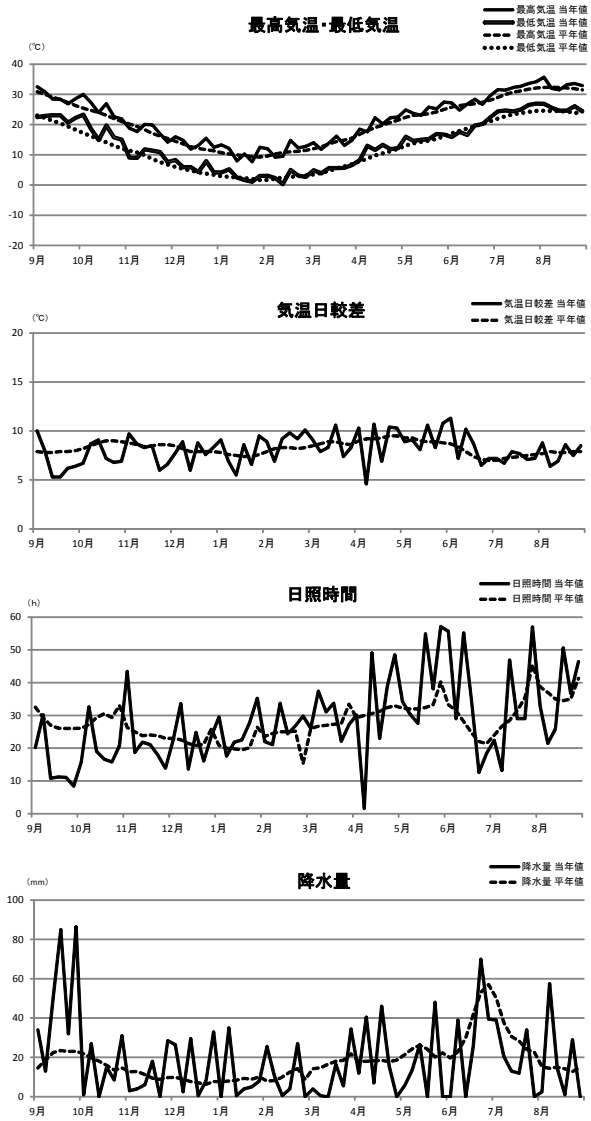
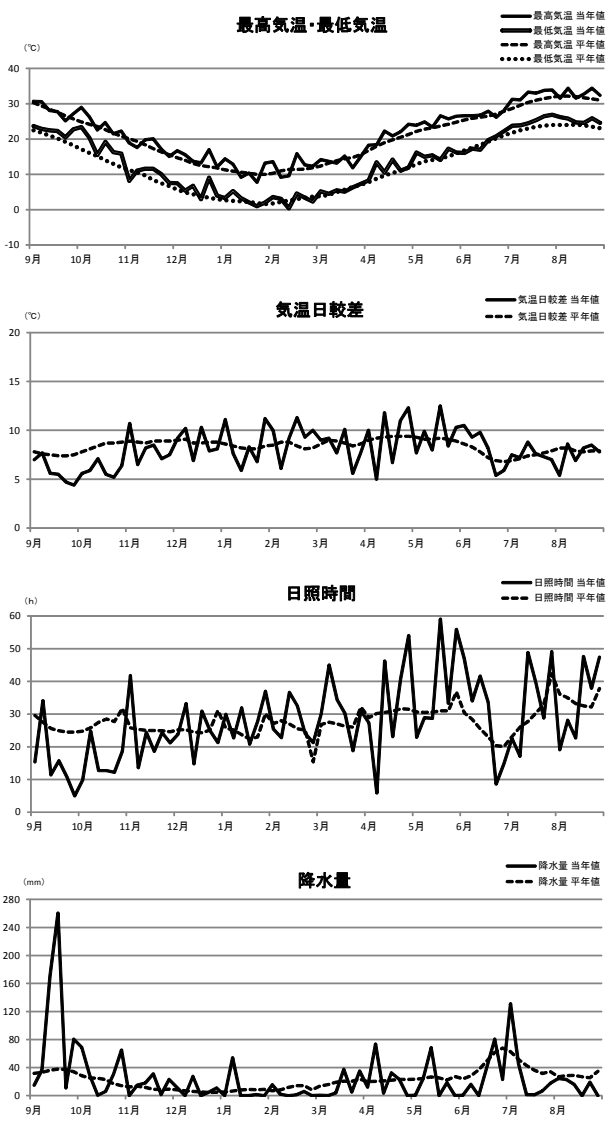


図２－13　平成29年産麦作期間の半旬別気象経過（大分）



３　豆　類・そ　ば

(1)　要　旨

平成29年産の豆類（乾燥子実）の収穫量は、大豆が25万3,000ｔ、小豆が５万3,400ｔ、いんげんは１万6,900ｔで、それぞれ前年産に比べ１万5,000ｔ（６％）、２万3,900ｔ（81％）、１万1,300ｔ（199％）増加した。一方、らっかせいは１万5,400ｔで、前年産に比べ100ｔ（１％）減少した。

また、そば（乾燥子実）の収穫量は３万4,400ｔで、前年産に比べ5,600ｔ（19％）増加した（表３）。

表３　平成29年産豆類（乾燥子実）及びそば（乾燥子実）の作付面積、10ａ当たり収量及び収穫量

区　分	作付面積	10ａ当たり収量	収穫量	前年産との比較						（参考）	
				作付面積		10ａ当たり収量	収穫量			10ａ当たり平均収量対比	10ａ当たり平均収量
				対差	対比	対比	対差	対比			
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%		%	kg
大豆	150,200	168	253,000	200	100	106	15,000	106		101	166
小豆	22,700	235	53,400	1,400	107	170	23,900	181		113	208
うち北海道	17,900	278	49,800	1,700	110	166	22,700	184		115	242
いんげん	7,150	236	16,900	△ 1,410	84	358	11,300	299		136	173
うち北海道	6,630	248	16,400	△ 1,310	84	359	10,900	299		139	178
らっかせい	6,420	240	15,400	△ 130	98	101	△ 100	99		104	231
うち千葉	5,080	241	12,200	△ 90	98	101	△ 100	99		102	236
そば	62,900	55	34,400	2,300	104	115	5,600	119		96	57

注：　小豆、いんげん及びらっかせいの作付面積調査及び収穫量調査は主産県調査であり、３年又は６年周期で全国調査を実施している。平成29年産については主産県を対象に調査を行った。

なお、全国値は、主産県の調査結果から推計したものである。

(2)　解　説

ア　大豆（乾燥子実）

(ｱ)　作付面積

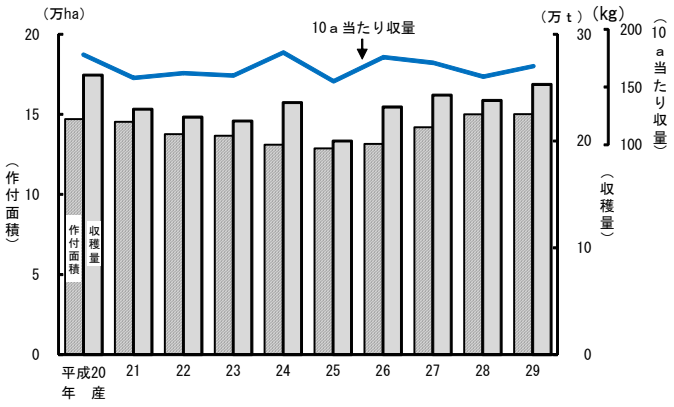
大豆の作付面積は15万200haで、前年産並みであった（表３、図３－１）。

(ｲ)　10ａ当たり収量

10ａ当たり収量は168kgで、前年産に比べ６％上回った。

これは、北海道や九州において、おおむね天候に恵まれたことから、台風や長雨等の影響により作柄の悪かった前年産に比べ、被害の発生が少なかったためである（表３、図３－１）。

図３－１　大豆の作付面積、収穫量及び10ａ当たり収量の推移（全国）

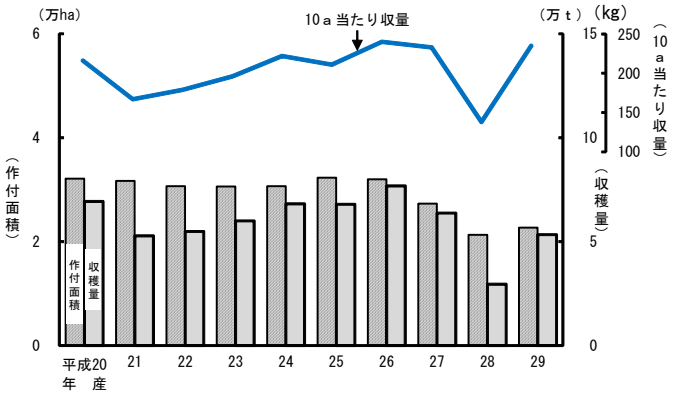


(ｳ)　収穫量

収穫量は25万3,000ｔで、前年産に比べ１万5,000ｔ（６％）増加した（表３、図３－１）。

イ　小豆（乾燥子実）

図３－２　小豆の作付面積、収穫量及び10ａ当たり収量の推移（全国）



(ｱ)　作付面積

小豆の作付面積は２万2,700haで、前年産に比べ1,400ha（７％）増加した。

このうち、北海道の作付面積は１万7,900haで、前年産に比べ1,700ha（10％）増加した。

これは、いんげんからの転換等があったためである（表３、図３－２）。

(ｲ)　10ａ当たり収量

10ａ当たり収量は235kgで、前年産に比べ70％上回った。

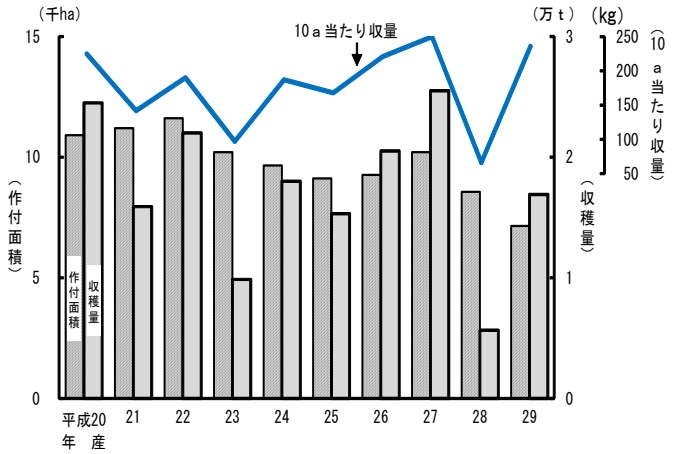
これは、主産地である北海道において、おおむね天候に恵まれたことから、台風や長雨等の影響により作柄の悪かった前年産に比べ、登熟が良好で被害の発生も少なかったためである（表３、図３－２）。

(ｳ)　収穫量

収穫量は５万3,400ｔで、前年産に比べ２万3,900ｔ（81％）増加した（表３、図３－２）。

ウ　いんげん（乾燥子実）

図３－３　いんげんの作付面積、収穫量及び10ａ当たり収量の推移（全国）



(ｱ)　作付面積

いんげんの作付面積は7,150haで、前年産に比べ1,410ha（16％）減少した。

このうち、北海道の作付面積は6,630haで、前年産に比べ1,310ha（16％）減少した。

これは、小豆への転換等があったためである（表３、図３－３）。

(ｲ)　10ａ当たり収量

10ａ当たり収量は236kgで、前年産に比べ258％上回った。

これは、主産地である北海道において、おおむね天候に恵まれたことから、台風や長雨等の影響により作柄の悪かった前年産に比べ、登熟が良好で被害の発生も少なかったためである（表３、図３－３）。

(ｳ)　収穫量

収穫量は１万6,900ｔで、前年産に比べ１万1,300ｔ（199％）増加した（表３、図３－３）。

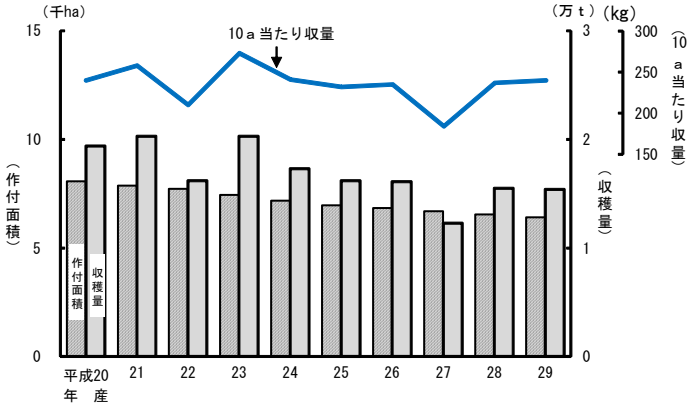
エ　らっかせい（乾燥子実）

(ｱ)　作付面積

らっかせいの作付面積は6,420haで、前年産に比べ130ha（２％）減少した。

このうち千葉県の作付面積は5,080haで、前年産に比べ90ha（２％）減少した（表３、図３－４）。

図３－４　らっかせいの作付面積、収穫量及び10ａ当たり収量の推移（全国）



(ｲ)　10ａ当たり収量

10ａ当たり収量は240kgで、前年産に比べ１％上回った（表３、図３－４）。

(ｳ)　収穫量

収穫量は１万5,400ｔで、前年産に比べ100ｔ（１％）減少した（表３、図３－４）。

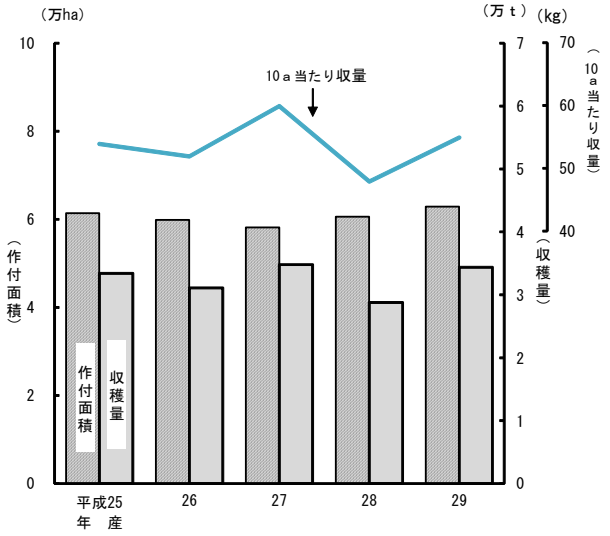
オ　そば（乾燥子実）

(ｱ)　作付面積

そばの作付面積は６万2,900haで、前年産に比べ2,300ha（４％）増加した。

これは、他作物からの転換等があったためである（表３、図３－５）。

図３－５　そばの作付面積、収穫量及び10ａ当たり収量の推移（全国）



(ｲ)　10ａ当たり収量

10ａ当たり収量は55kgで、前年産に比べ15％上回った。

これは、主産地である北海道において、おおむね天候に恵まれ、登熟が良好であったためである（表３、図３－５）。

(ｳ)　収穫量

収穫量は３万4,400ｔで、前年産に比べ5,600ｔ（19％）増加した（表３、図３－５）。

４　かんしょ

(1)　作付面積

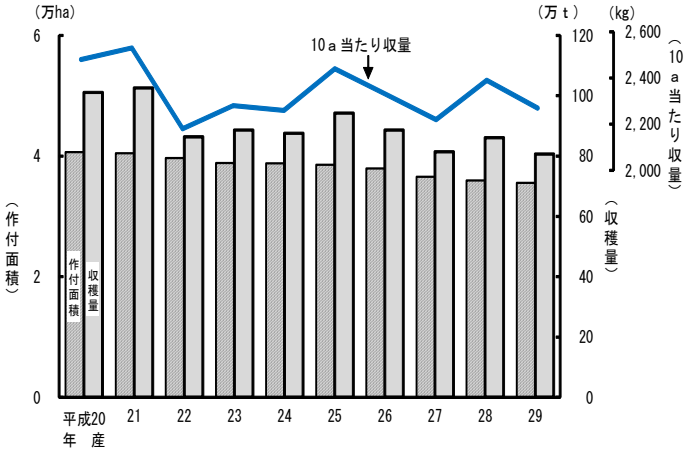
かんしょの作付面積は３万5,600haで、前年産に比べ400ha（１％）減少した（表４、図４）。

(2)　10ａ当たり収量

10ａ当たり収量は2,270kgで、前年産に比べ５％下回った。

これは、主産地である九州地域において９月以降の日照不足及び多雨の影響により、いもの肥大が抑制されたためである（表４、図４）。

図４　かんしょの作付面積、収穫量及び10ａ当たり収量の推移（全国）



(3)　収穫量

収穫量は80万7,100ｔで、前年産に比べ５万3,600ｔ（６％）減少した（表４、図４）。

表４　平成29年産かんしょの作付面積、10ａ当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10ａ当たり収量	収穫量	前年産との比較						（参考）	
				作付面積		10ａ当たり収量	収穫量			10ａ当たり平均収量対比	10ａ当たり平均収量
				対差	対比	対比	対差	対比			
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%		%	kg
全国	35,600	2,270	807,100	△ 400	99	95	△ 53,600	94		99	2,300

注：　かんしょの作付面積調査及び収穫量調査は主産県調査であり、３年又は６年周期で全国調査を実施している。平成29年産については全国を対象に調査を行った。

５　飼料作物

(1) 牧草

ア　作付（栽培）面積

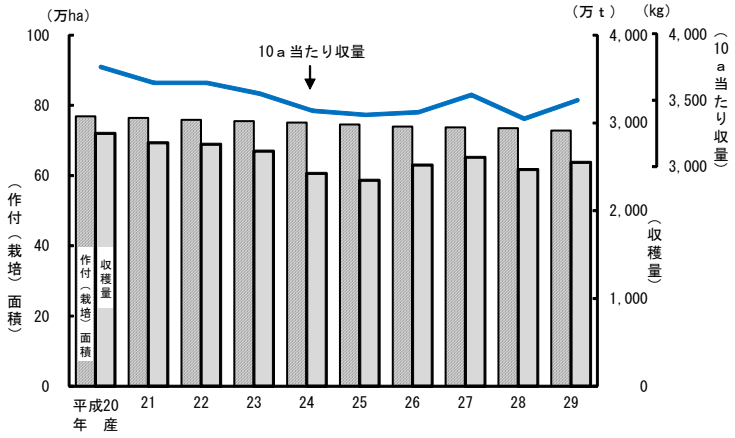
牧草の作付(栽培)面積は72万8,300haで、前年産に比べ6,900ha（１％）減少した（表５－１、図５－１）。

イ　10ａ当たり収量

10ａ当たり収量は3,500kgで、前年産に比べ４％上回った。

これは、主産地である北海道において、台風や長雨等の影響のあった前年産に比べ、気象被害の発生が少なかったためである（表５－１、図５－１）。

図５－１　牧草の作付（栽培）面積、収穫量及び10ａ当たり収量の推移（全国）



注：　平成24年産及び平成25年産の10ａ当たり収量及び収穫量については、全国値の推計を行っていないため、主産県計の数値である。

ウ　収穫量

収穫量は2,549万7,000ｔで、前年産に比べ80万8,000ｔ（３％）増加した（表５－１、図５－１）。

表５－１　平成29年産牧草の作付（栽培）面積、10ａ当たり収量及び収穫量

区分	作付(栽培)面積	10ａ当たり収量	収穫量	前年産との比較					（参考）	
				作付（栽培）面積		10ａ当たり収量	収穫量		10ａ当たり平均収量対比	10ａ当たり平均収量
				対差	対比	対比	対差	対比		
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg
全国	728,300	3,500	25,497,000	△ 6,900	99	104	808,000	103	100	3,500
うち北海道	535,000	3,340	17,869,000	△ 3,500	99	107	1,068,000	106	102	3,270

注：　飼料作物の収穫量調査は主産県調査であり、３年又は６年周期で全国調査を実施している。平成29年産については全国を対象に調査を行った。

(2)　青刈りとうもろこし

ア　作付面積

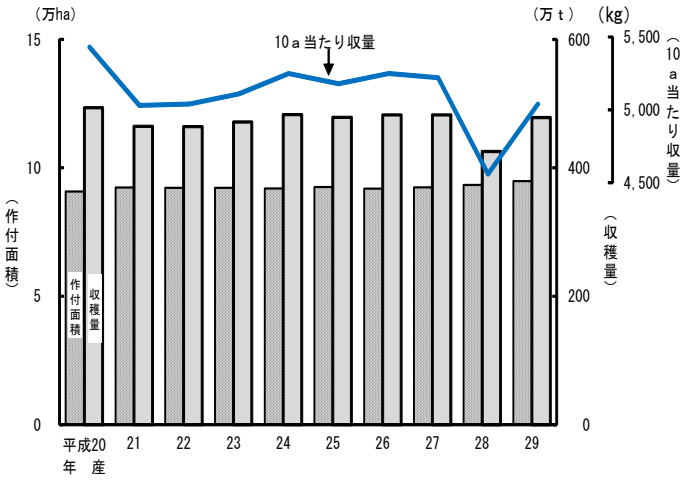
青刈りとうもろこしの作付面積は９万4,800haで、前年産に比べ1,400ha（１％）増加した（表５－２、図５－２）。

イ　10ａ当たり収量

10ａ当たり収量は5,040kgで、前年産に比べ11%上回った。

これは、主産地である北海道において、台風や長雨の影響のあった前年産に比べ、気象被害の発生が少なかったためである（表５－２、図５－２）。

図５－２　青刈りとうもろこしの作付面積、収穫量及び10ａ当たり収量の推移（全国）



ウ　収穫量

収穫量は478万2,000ｔで、前年産に比べ52万7,000ｔ（12%）増加した（表５－２、図５－２）。

表５－２　平成29年産青刈りとうもろこしの作付面積、10ａ当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10ａ当たり収量	収穫量	前年産との比較						（参考）	
				作付面積		10ａ当たり収量	収穫量			10ａ当たり平均収量対比	10ａ当たり平均収量
				対差	対比	対比	対差	対比			
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%		%	kg
全国	94,800	5,040	4,782,000	1,400	101	111	527,000	112		98	5,160
うち北海道	55,100	5,450	3,003,000	2,100	104	115	501,000	120		100	5,450

(3)　ソルゴー

ア　作付面積

ソルゴーの作付面積は１万4,400haで、前年産に比べ400ha（３％）減少した。

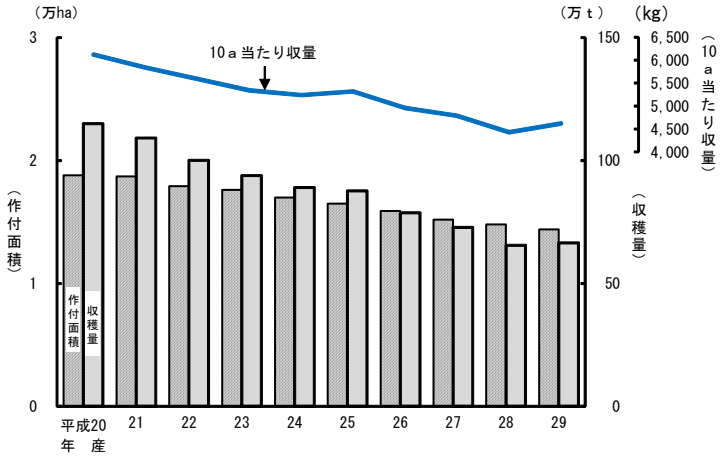
これは、他作物への転換等があったためである（表５－３、図５－３）。

イ　10ａ当たり収量

10ａ当たり収量は4,620kgで、前年産に比べ４％上回った。

これは、主産地である九州地域において、台風による倒伏被害等がみられたものの、日照不足や台風の影響により作柄の悪かった前年産に比べ、気象被害の発生が少なかったためである（表５－３、図５－３）。

図５－３　ソルゴーの作付面積、収穫量及び10ａ当たり収量の推移（全国）



ウ　収穫量

収穫量は66万5,000ｔで、前年産に比べ9,700ｔ（１％）増加した（表５－３、図５－３）。

表５－３　平成29年産ソルゴーの作付面積、10ａ当たり収量及び収穫量

区分	作付面積	10ａ当たり収量	収穫量	前年産との比較						（参考）	
				作付面積		10ａ当たり収量	収穫量			10ａ当たり平均収量対比	10ａ当たり平均収量
				対差	対比	対比	対差	対比			
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%		%	kg
全国	14,400	4,620	665,000	△ 400	97	104	9,700	101		90	5,130

６　工芸農作物

(1)　茶（主産県）

ア　栽培面積

茶の栽培面積は４万2,400haで、前年に比べ700ha（２％）減少した（表６－１）。

イ　摘採実面積

主産県の摘採実面積は３万4,500haで、前年産に比べ400ha（１％）減少した（表６－２）。

表６－１　茶の栽培面積（全国）

単位：ha

区　　分	栽　培　面　積
平成28年	43,100
29	42,400
対前年産比（％）	98

注：　平成29年から茶の栽培面積は、主産県調査であり、全国値は主産県の調査結果から推計したものである。

ウ　生葉収穫量

主産県の生葉収穫量は36万9,800ｔで、前年産に比べ5,300ｔ（１％）増加した（表６－２）。

エ　荒茶生産量

主産県の荒茶生産量は７万8,800ｔで、前年産に比べ1,700ｔ（２％）増加した。

都府県別にみると、静岡県が３万800ｔ（主産県計に占める割合は39％）、次いで鹿児島県が２万6,600ｔ（同34％）、三重県が6,130ｔ（同８％）となっている（表６－２、図６－１）。

図６－１　荒茶生産量割合（主産県）

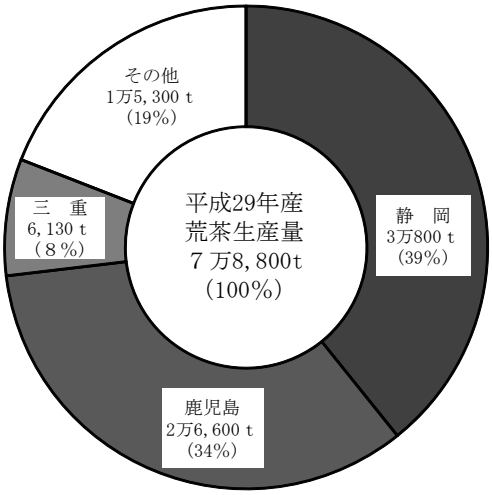


表６－２　平成29年産茶の摘採面積、10ａ当たり生葉収量、生葉収穫量及び荒茶生産量（主産県）

区　分	摘採面積		10ａ当たり生葉収量		生葉収穫量		荒茶生産量	
	実面積	延べ面積		一番茶		一番茶		一番茶
	ha	ha	kg	kg	t	t	t	t
平成28年産	34,900	82,000	1,040	431	364,500	150,300	77,100	30,100
29	34,500	83,400	1,070	418	369,800	143,700	78,800	28,900
対前年産比（％）	99	102	103	97	101	96	102	96

注：茶の収穫量調査は主産県調査であり、６年周期で全国調査を実施している。平成29年産については主産県を対象に調査を行った。

(2)　なたね（子実用）

ア　作付面積

なたねの作付面積は1,980haで、前年産並みであった（表６－３、図６－２）。

イ　10ａ当たり収量

10ａ当たり収量は185kgで、前年産に比べ１％上回った（表６－３、図６－２）。

ウ　収穫量

収穫量は3,670ｔで、前年産に比べ20ｔ（１％）増加した（表６－３、図６－２）。

図６－２　なたねの作付面積、収穫量及び10ａ当たり収量の推移（全国）

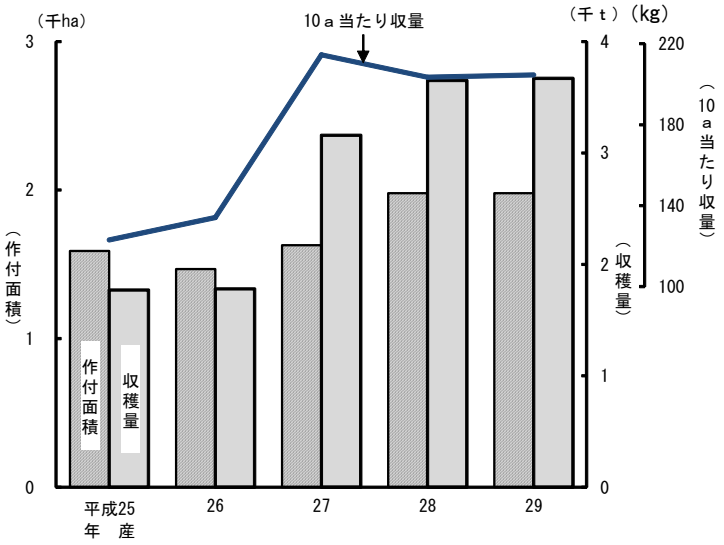


表６－３　平成29年産なたねの作付面積、10ａ当たり収量及び収穫量

区　分	作付面積	10ａ当たり収量	収穫量	前年産との比較						（参考）	
				作付面積		10ａ当たり収量	収穫量			10ａ当たり平均収量対比	10ａ当たり平均収量
				対差	対比	対比	対差	対比			
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%		%	kg
全　国	1,980	185	3,670	0	100	101	20	101		143	129

(3)　てんさい（北海道）

ア　作付面積

北海道のてんさいの作付面積は５万8,200haで、前年産に比べ1,500ha（３％）減少した。

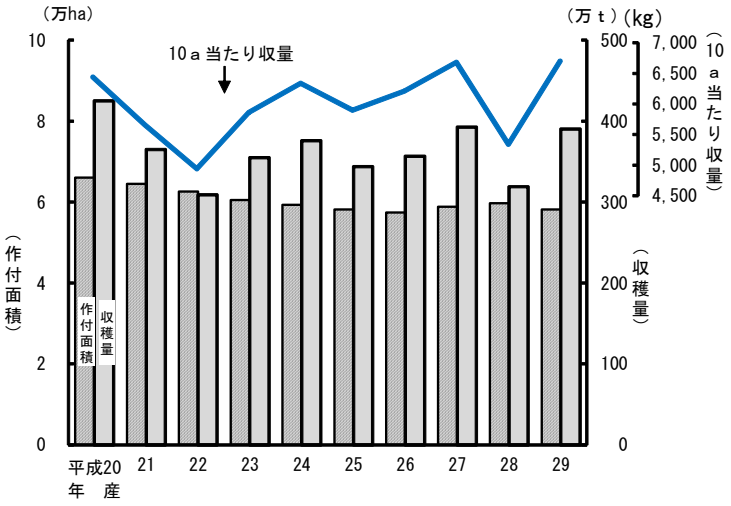
これは、他作物への転換等があったためである（表６－４、図６－３）。

イ　10ａ当たり収量

北海道の10ａ当たり収量は6,700kgで、前年産に比べ25％上回った。

これは、おおむね天候に恵まれたことに加え、病虫害の発生が少なかったためである（表６－４、図６－３）。

図６－３　てんさいの作付面積、収穫量及び10ａ当たり収量の推移（北海道）



ウ　収穫量

北海道の収穫量は390万1,000ｔで、前年産に比べ71万2,000ｔ（22％）増加した（表６－４、図６－３）。

表６－４　平成29年産てんさいの作付面積、10ａ当たり収量及び収穫量（北海道）

区　分	作付面積	10ａ当たり収量	収穫量	前年産との比較						（参考）	
				作付面積		10ａ当たり収量	収穫量			10ａ当たり平均収量対比	10ａ当たり平均収量
				対差	対比	対比	対差	対比			
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%		%	kg
北海道	58,200	6,700	3,901,000	△ 1,500	97	125	712,000	122		113	5,930

注：てんさいの調査は、北海道を対象に行っている。

(4) さとうきび

ア 収穫面積

さとうきびの収穫面積は２万3,700haで、前年産に比べ800ha（３％）増加した

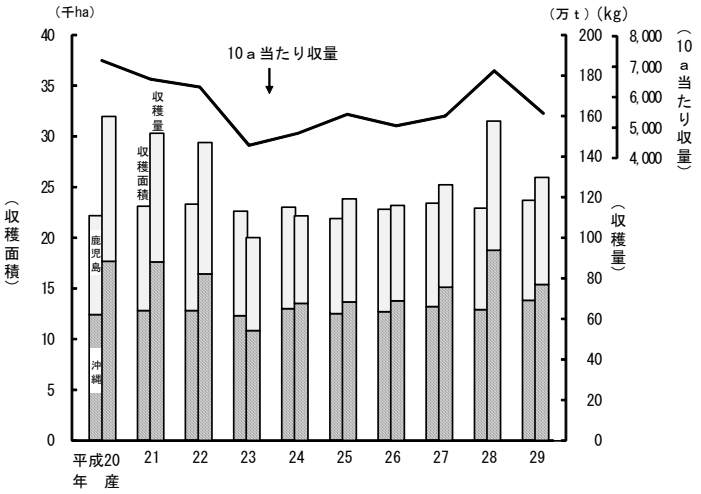
これは、株出し栽培が増加したためである（表６－５、図６－４）。

イ 10ａ当たり収量

10ａ当たり収量は5,470kgで、作柄の良好であった前年産に比べ20％下回った。

これは、前年産に比べ相次ぐ台風の通過による茎葉の損傷や倒伏被害等が多く発生したためである（表６－５、図６－４）。

図６－４ さとうきびの収穫面積、収穫量及び10ａ当たり収量の推移



ウ 収穫量

収穫量は129万7,000ｔで、前年産に比べ27万7,000ｔ（18％）減少した（表６－５、図６－４）。

表６－５ 平成29年産さとうきびの作型別栽培・収穫面積、10ａ当たり収量及び収穫量

区分	栽培面積	収穫面積				10ａ当たり収量			
		計	夏植え	春植え	株出し	計	夏植え	春植え	株出し
	ha	ha	ha	ha	ha	kg	kg	kg	kg
全国 平成28年産	28,800	22,900	5,400	3,040	14,500	6,870	8,670	6,490	6,270
29	**28,500**	**23,700**	**5,130**	**2,880**	**15,700**	**5,470**	**7,120**	**5,030**	**5,010**
対前年産比（％）	99	103	95	95	108	80	82	78	80
鹿児島	11,100	9,880	1,110	1,660	7,110	5,350	7,240	5,150	5,100
対前年産比（％）	97	99	86	93	102	84	90	79	85
沖縄	17,400	13,800	4,020	1,220	8,580	5,570	7,080	4,870	4,950
対前年産比（％）	100	107	98	98	113	77	80	76	76

区分	収穫量			
	計	夏植え	春植え	株出し
	t	t	t	t
全国 平成28年産	1,574,000	468,000	197,200	909,100
29	**1,297,000**	**365,200**	**144,900**	**787,200**
対前年産比（％）	82	78	73	87
鹿児島	528,500	80,400	85,500	362,600
対前年産比（％）	83	78	73	87
沖縄	768,900	284,800	59,400	424,600
対前年産比（％）	82	78	74	86

注：さとうきびの調査は、鹿児島県及び沖縄県を対象に行っている。

(5)　こんにゃくいも（主産県）

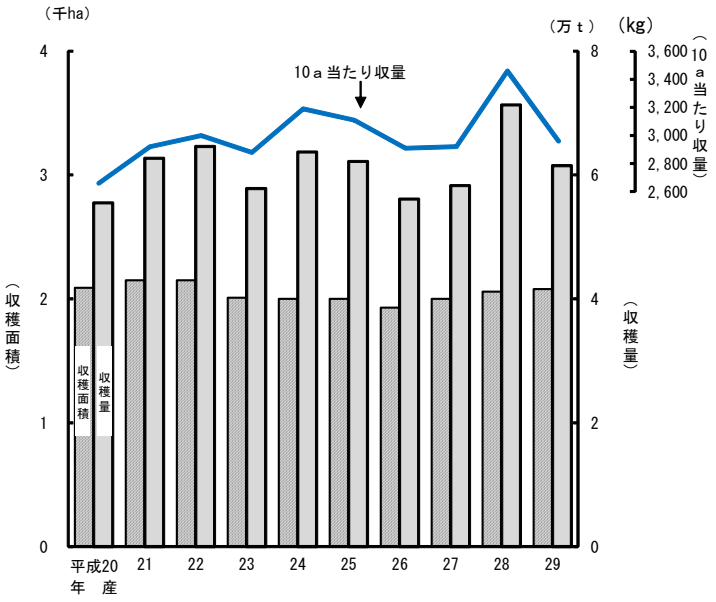
ア　栽培面積・収穫面積

主産県のこんにゃくいもの栽培面積は3,440haで前年産に比べ30ha（１％）減少した。

また、主産県の収穫面積は2,080haで前年産に比べ20ha（１％）増加した。

このうち主産地である群馬県の栽培面積は3,350haで、前年産に比べ20ha（１％）減少し、収穫面積は2,010haで前年産に比べ20ha（１％）増加した（表６－６、図６－５）。

図６－５　こんにゃくいもの収穫面積、収穫量及び10ａ当たり収量の推移（主産県）



注：　こんにゃくいもの全国値が全て揃わないため、主産県計で作成している。

イ　10ａ当たり収量

主産県の10ａ当たり収量は2,960kgで、前年産に比べ14％下回った。

このうち主産地である群馬県のこんにゃくいもの10ａ当たり収量は2,970kgで、前年産に比べ15％下回った。

これは、９月中旬以降の台風や多雨の影響等により、いもの肥大が抑制されたためである（表６－６、図６－５）。

ウ　収穫量

主産県の収穫量は６万1,500ｔで、前年産に比べ9,800ｔ（14％）減少した。

このうち主産地である群馬県の収穫量は５万9,700ｔで、前年産に比べ9,800ｔ（14％）減少した（表６－６、図６－５）。

表６－６　平成29年産こんにゃくいもの栽培・収穫面積、10ａ当たり収量及び収穫量（主産県）

区分	栽培面積	収穫面積	10ａ当たり収量	収穫量	前年産対比 栽培面積 対差	栽培面積 対比	収穫面積 対差	収穫面積 対比	10ａ当たり収量 対比	収穫量 対差	収穫量 対比	（参考）10ａ当たり平均収量対比	（参考）10ａ当たり平均収量
	ha	ha	kg	t	ha	%	ha	%	%	t	%	%	kg
全国	3,860	2,330	2,780	64,700	nc	nc	nc	nc	nc	nc	nc	nc	…
主産県計	3,440	2,080	2,960	61,500	△ 30	99	20	101	86	△ 9,800	86	98	3,030
栃木	95	67	2,710	1,820	△ 4	96	△ 2	97	104	20	101	106	2,550
群馬	3,350	2,010	2,970	59,700	△ 20	99	20	101	85	△ 9,800	86	97	3,050

注：　こんにゃくいもの作付面積及び収穫量調査は主産県調査であり、３年又は６年周期で全国調査を実施している。平成29年産については主産県を対象に調査を行っており、主産県の調査結果から全国推計している。

(6)　い（主産県）

ア　作付面積

主産県（福岡県及び熊本県）の「い」の作付面積は578haで、前年産に比べ65ha（10%）減少した。

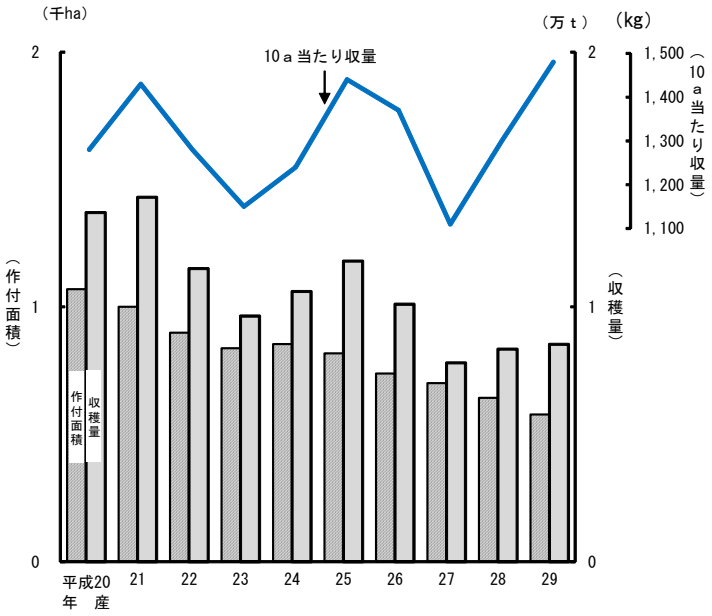
これは、他作物への転換等があったためである（表６－７、図６－６）。

イ　10ａ当たり収量

主産県の10ａ当たり収量は1,480kgで、前年産に比べ14%上回った。

これは、生育期間の天候がおおむね順調に経過したことに加え、一部で多収品種への移行があったためである（表６－７、図６－６）。

図６－６　「い」の作付面積、収穫量及び10ａ当たり収量の推移（主産県）



ウ　収穫量

主産県の収穫量は8,530ｔで、前年産に比べ190ｔ（２%）増加した（表６－７、図６－６）。

エ　畳表生産農家数及び畳表生産量

主産県の「い」の生産農家数は474戸で、前年産に比べ48戸（９%）減少した。

このうち、畳表の生産まで一貫して行っている畳表生産農家数は456戸で、前年に比べ20戸（４%）減少した。

なお、平成28年７月から平成29年６月までの畳表生産量は2,650千枚で、前年に比べ110千枚（４%）増加した（表６－７）。

表６－７　平成29年産「い」の作付面積、10ａ当たり収量、収穫量等（主産県）

区分	「い」生産農家数	作付面積	10ａ当たり収量	収穫量	前年産との比較						（参考）		畳表生産農家数	畳表生産量
					作付面積		10ａ当たり収量	収穫量			10ａ当たり平均収量対比	10ａ当たり平均収量		
					対差	対比	対比	対差	対比					
	戸	ha	kg	t	ha	%	%	t	%		%	kg	戸	千枚
主産県計	474	578	1,480	8,530	△ 65	90	114	190	102		117	1,270	456	2,650
福岡	13	10	1,230	123	△ 2	83	104	△ 19	87		101	1,220	9	34
熊本	461	568	1,480	8,410	△ 63	90	114	210	103		117	1,270	447	2,620

注：１　「い」の調査は、福岡県及び熊本県を対象に行っている。
２　「い」生産農家数は、平成29年産の「い」を生産する全ての農家の数である。
３　畳表生産農家数は、「い」の生産から畳表の生産まで一貫して行っている農家で、平成28年７月から平成29年６月までに畳表の生産を行った農家の数である。
４　畳表生産量は、平成28年７月から平成29年６月までに生産されたものである。